

知的障害者向けのわかりやすい情報の応用可能性に関する予備的検討

—留学生・聴覚障害を有する学生等を対象に—

打浪 文子(淑徳大学短期大学部) 大淵 裕美(奈良学園大学)

1. はじめに

主に障害者を対象とする、言語やコミュニケーションに困難を有する人達への「情報保障」やコミュニケーション支援は、社会福祉や福祉工学、言語学等の諸分野において、障害特性に合わせた方法や手段が追究されている。しかし、言語的な困難を有するそれぞれの群に対しての研究や実践は、類似の技術や他障害にも活用できる知見や社会的実践は多くあるにもかかわらず、連携可能性は提言されず分断されたままである。本研究はこうした課題に応えるべく、知的障害者を中心とした言語的に弱い立場にあるさまざまな人々に対する、わかりやすい日本語による情報保障の連携や応用可能性の検討を目指すものである。

社会言語科学の領域では、松尾ほか(2013)が「わかりやすい日本語」をキーワードとして、外国人、ろう者・難聴者、知的障害者らに言語的な共通性があることを示唆している。打浪ほか(2017)は、知的障害者向けのわかりやすい情報提供と外国人向けの「やさしい日本語」に一定の言語的な共通性および相違性があることを明らかにしている。しかし、わかりやすい日本語による情報保障のあり方に関する学際的検討は未だ量的・質的にも十分ではない。また、既に社会にある平易な日本語による情報媒体や「やさしい日本語」による諸実践を、どう相互に活用していくかについての学術的示唆もほとんどないのが現状である。

本研究では、知的障害者が編集委員となって編集・作成に参加していた情報媒体(社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会刊「ステージ」)を用いて、知的障害者向けに作成されたわかりやすい情報媒体が留学生や聴覚障害学生など日本語に関する困難を抱える人々にとって有効かどうか、および対象者らの「ステージ」のような形態による視覚的・文章的の双方に配慮されたわかりやすい情報へのニーズや、わかりやすさに関する意識の相違を明らかにする。

2. 方法

2018年6月、中国人留学生(以下、留学生)・聴覚に障害を有する学生(以下、聴覚障害学生)などの多様な言語的背景を有する学生が一斉に受講しているN大学教員養成系学部の「共生と社会」の講義内(履修登録者数59名、音声認識アプリ「UDトーク」を講義内で毎回使用)において、知的障害についての概要を説明するとともに、知的障害者向けに作成された情報媒体(みんながわかる新聞「ステージ」、(福)全日本手をつなぐ育成会刊、2012年冬号)を用いてアンケート調査を実施した。「ステージ」とは軽度および中度の知的障害者を編集委員に加えて作成された、視覚的・文章的に平易な工夫がされた情報媒体である(打浪(古賀), 2014a)。

回答者数43名のうち、有効回答者数は41名(95.3%)である。ただし、無回答の場合は欠損値と指定し分析から除外しているため、分析サンプル数はこれより若干少なくなる。アンケート調査の内容は、1)属性(フェイスシート)、2)知的障害者との関わり、3)日本語の学習状況(留学生のみ)、4)「ステージ」ニュース記事のわかりやすさ、5)「ステージ」ダイジェスト記事のわかりやすさ、6)身の回りの情報のわかりやすさへのニーズ、である。アンケート調査用紙は知的障害を有する人や第二言語話者が回答することを前提に、すべてにふりがなを振ったうえで視覚的なレイアウトに配慮し、かつ平易な日本語表現にて作成した²。

また、追加調査として、当該講義およびアンケートに参加した留学生2名(両名ともN1取得)、聴覚障害学生1名、日本語教師志望の日本人学生1名の計4名に半構造化面接法による聞き取り調査を実施した。聞き取り調査の内容は、1)生育歴および対象者の日常生活における読み書きの状況(普段のコミュニケーションの方法・日本語学習状況等)、2)知的障害者への印象や接点、3)「ステージ」ニュース記事・ダイジェスト記事に関する意見(アンケート調査の補足)、4)「ステージ」

¹今回の調査は、第一筆者の所属先にて研究倫理審査に諮り、承認を受けている。

²アンケートの日本語に関する難易度を「帯3」(<http://kotoba.nuee.nagoya-u.ac.jp/sc/obi3/>)を用いて確認したところ、ふりがな有り度1(とてもやさしい、小学6年生程度)であった。なお、ふりがな無しでは6(ややむずかしいめ、中学3年生程度)となった。また、「JReadability」(<http://jreadability.net/ja/>)でも確認したところ、ふりがな有り度で初級後半(やさしい)、ふりがな無しで中級前半(ふつう)となった。

その他のページへの意見, 5) 普段の情報源およびわかりやすい情報へのニーズ, である。聞き取り調査はすべて日本語で行った。聴覚障害学生については普段のコミュニケーションが口話を主とすることから聞き取りは口話で行い, 不明瞭な点の確認の際に一部に手話・筆談を用いた。聞き取り時間は各 30 分～1 時間程度であった。調査は対象者に許可を得て録音し, 逐語録を作成し分析の対象とした。

3. 結果

3.1 アンケート結果

アンケート調査の結果は以下の通りである。41 名中, 平均年齢は 20.56 歳, 性別は男性 19 名・女性 22 名であった。また, 日本人学生 24 名 (うち聴覚障害学生 1 名) に対して留学生は 17 名であり, 留学生の日本語能力資格は N1 取得者 3 名, N2 取得者 9 名, 未取得者 6 名であった。

「ステージ」の記事に関しては, 「ニュース記事」と「ニュースダイジェスト」に焦点を当て記事の読みやすさについて, 「写真やイラスト」「文字の大きさ」「文の区切り方」「記事全体の内容」などの 10 項目について 4 件法で調査した。その結果, 「ニュース記事」と「ニュースダイジェスト」について, ほぼ全ての項目において 80%以上の日本人学生・留学生が「とてもわかりやすい」「どちらかというわかりやすい」と回答した。なお, 統計上の有意差は見られなかったが, 「ニュース記事」および「ニュースダイジェスト」の「記事全体の内容」の項目については, 「どちらかというわかりにくい」「わかりにくい」という留学生の回答が散見された。

一方, わかりやすい情報に関するニーズは, クロス表分析の結果, 日本人学生と留学生で有意差が見られた。具体的には, 表に示すように, 留学生は日本人学生と比較して「趣味・娯楽」や「生活・暮らし・健康」に関するわかりやすい情報を有意に希望することが析出された。その他の項目については, 留学生と日本人学生との間で有意な差は見られなかった。

表: 「ステージ」に類似したわかりやすい情報に対するニーズ (下線太字箇所は聴覚障害学生の回答)

			海外のこと(国際)		日本国内のこと (政治・経済・社会)		芸能・スポーツ		娯楽・趣味		生活・くらし・健康		福祉・教育		合計
			選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	
学生の分類	留学生	度数	14	3	11	6	8	9	13	4	14	3	7	10	17
		%	82.4%	17.6%	64.7%	35.3%	47.1%	52.9%	76.5%	23.5%	82.4%	17.6%	41.2%	58.8%	100.0%
	日本人学生	度数	15	8	16	7	11	12	5	18	5	18	12	11	23
		%	65.2%	34.8%	69.6%	30.4%	47.8%	52.2%	21.7%	78.3%	21.7%	78.3%	52.2%	47.8%	100.0%
合計		度数	29	11	27	13	19	21	18	22	19	21	19	21	40
		%	72.5%	27.5%	67.5%	32.5%	47.5%	52.5%	45.0%	55.0%	47.5%	52.5%	47.5%	52.5%	100.0%
Pearson χ^2			1.440		.105		.002		11.831 **		14.401 ***		.474		
自由度			1		1		1		1		1		1		
Cramer's V			.190		.051		.008		.544 **		.600 ***		.109		
			すんでいる地域の 情報		役所等からの文書		契約時などに交わ す重要な書類(重要 事項説明書など)		学校や職場からの お知らせなど		自分には必要ない		合計		
			選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択	選択	非選択			
学生の分類	留学生	度数	10	7	2	15	4	13	7	10	1	16	17		
		%	58.8%	41.2%	11.8%	88.2%	23.5%	76.5%	41.2%	58.8%	5.9%	94.1%	100.0%		
	日本人学生	度数	9	14	8	15	9	14	9	14	3	20	23		
		%	39.1%	60.9%	34.8%	65.2%	39.1%	60.9%	39.1%	60.9%	13.0%	87.0%	100.0%		
合計		度数	19	21	10	30	13	27	16	24	4	36	40		
		%	47.5%	52.5%	25.0%	75.0%	32.5%	67.5%	40.0%	60.0%	10.0%	90.0%	100.0%		
Pearson χ^2			1.520		2.762		1.085		.017		.557				
自由度			1		1		1		1		1				
Cramer's V			.195		.263		.165		.021		.118				

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

3.2 インタビュー結果

3.2.1 留学生 2 名

留学生 2 名 (A さん・女性, B さん・男性) はいずれも中国からの留学生であり, 中国の大学にて日本語を学んでおり, 留学前に N1 を取得していた。日本語学習のきっかけは, それぞれの「趣味」(日本文化やアニメ等)が動機となっていた。

A さんの自己認識としては, 会話より読み書きの方が得意であるが, 意図的にわかりやすく書かれている時事情報を観るのは初めてと言い, 「ステージ」については「わかりやすい。図が多い」「ふりがながもう (中略) 読みやすい。文章が読み

やすい」と視覚的にも文章的にも肯定的な印象であった。日々の情報源についてはほぼスマートフォンであり、自分が探したいものをインターネットやアプリを使用して見ているが、「ニュースとかはあまり（見ない）」と普段から中国語であっても日本語であっても時事情報への興味自体は低かった。わかりやすさへのニーズとしては「バイトの時に、いろいろな薬の名前、全然わからない」という生活場面に密着した困難や、大学の講義等でよりわかりやすい情報がほしいというニーズが語られた。

一方、Bさんの自己認識としては、読み書きよりも会話の方が得意であった。「ステージ」については、「見やすいです。キーワードがもらいやすいから」と要点をすぐに理解できるという理由で、ニュースダイジェストの記事の赤字になっている視覚的配慮の強調部分の見やすさを指摘した。また、Bさんは「国際関係」と「教育関係」に興味があり、普段からニュースサイトやアプリなどを使用して情報を得ていたが、そうしたサイトが「ステージ」のような形になったらという問いに対して「いいですよ」と答え、理由として記事を読む時間が短くなることを挙げた。また、普段の生活面で電車の乗り換え表示のわかりにくさや、アルバイト先での日本語でのやりとりで困難があることが語られた。さらに、わかりやすさのニーズに関しては、「簡単すぎる漢字がふりがなだったら面倒くさいと思います」と、自身の日本語の理解度ではふりがなについては一部不要であること、一方でカタカナ語に関しては人名・専門用語等の区別がつきにくく理解が困難であると述べた。

3.2.2 聴覚障害学生1名

聴覚障害学生は、要約率の高い「ステージ」の情報量への言及が見られた。「（ステージは）情報が減ってしまうっていうデメリットがあるんですが、それが（普通と）同じくらいの情報（量）で教えてもらえるといいです」と、要約ゆえの情報全体の少なさを指摘しつつも、「ステージ」のようなわかりやすい情報提供の方法自体は肯定的に評価していた。

また、普段の情報媒体に関してはスマートフォンが主であったが、操作等については「得意」と述べた上で、アプリ等のわかりやすさについては「（普段使っているファッション情報系のアプリがステージのような見た目になったら）見ます。わかりやすい。（略）ふりがなつけてもらったほうが、こうやって読むんやとか。読み方を知らない時が多いので、漢字があっても知ってることでも、こうやって読むんやとか、新たなことを知れるので」と、アクセスした情報におけるふりがなへのニーズが語られた。また、時事情報について「興味がない」と述べた上で、「これ（原文ニュース）を見てもわけがわかりません、私は。（略）だからこっち（ステージ）のほうが情報は少ないけど、でもわかりやすい。こっち（ステージ）を見て、たぶん興味を持ったら調べようという気になると思う。でもこれ（原文ニュース）だと興味すら持てない」と、わかりやすい情報媒体が時事情報等に関心を持つきっかけとして機能しうることを述べた。

3.2.3 日本人学生（日本語教師志望者）1名

「ステージ」については、「すごい見やすい」「流れがすごくわかりやすい」と、視覚的な工夫と文章面の理解度の双方に肯定的な意見を述べた上で、「（「ステージ」の印象として）小学校の国語の教科書を読んでもような印象を受けました」と、第一言語および教育面に結び付けた印象を述べた。また、「ステージ」のふりがなについて「私はありがたい、ルビがついてたら。（中略）場合によりますね。例えば、同級生とかの（卒業論文の）発表原稿に、全部ルビ付いてたら違和感を感じる。なんで付けてるんやろうって思うけど、今はこういう場（「ステージ」に関する調査場面）っていうのが分かっているから、ルビ違和感ないけど。そうじゃなかったら、違和感を感じるかもしれないですね」（原文ママ）と、普段アクセスするさまざまな情報が「ステージ」のような形になることには抵抗を示しつつも、「学校教育基本法とか（略）法律文書や、文部科学省が出している文書」や、「利用規約」などは普段の生活においても必要性が高い反面、読解に困難があることや読み飛ばしてしまうことが語られた。

4. 考察

アンケート調査からは、知的障害者向けのわかりやすい情報媒体である「ステージ」は、留学生にとって有効であること、また聴覚障害学生や日本人学生にとってもわかりやすさの面では一定程度有効であるという示唆を得られたといえる。今回は「ステージ」の時事情報の部分を用いて調査を行ったが、「ステージ」の時事情報の記事は背景説明が詳しいなどの特徴があることを鑑みれば（野澤, 2006; 打浪（古賀）2014）、日本語の平易さのみならず、日本国内の話題であっても留学生にも比較的理解がしやすかったのではないかと推測できる。こうした背景を補うような文章が理解の促進につながったと考えるのであれば、平易な表現に背景等の適切な加筆を加えること（打浪・岩田, 2019）は、多様な言語的背景を有する人々にとっても有効なわかりやすさとして機能する可能性が示唆されよう。一方で、少数ではあったが記事の内容等について「わかりにくい」という結果も見られた。わかりやすい情報媒体に対する見解だけでなく、対象者の日本語の読解能力に左右された可能性もある。この点も今後追究していく必要がある。

視覚的・文章的な両面に配慮されたわかりやすい情報媒体がどのような場面にどの程度必要かについては、言語的な背景

によって有意な差が見られる結果となった。留学生は「趣味・娯楽」や「生活・暮らし・健康」に関するわかりやすい情報を有意に希望することが明らかとなったが、聞き取り調査の際もそれらを裏付ける要素が析出されている。「趣味・娯楽」は日本語学習の動機ともなっており、自分自身が主体的に得たい情報に関するわかりやすさへのニーズであると言えよう。一方、「生活・暮らし・健康」は、アルバイト時や専門用語・カタカナ等の表現への困難が語られていることから、前者とは区別し、必要性あるいは喫緊性の高いニーズとして検討する必要がある。これらに関して、打浪(2014b)で調査した知的障害者のわかりやすい情報へのニーズと部分的に合致する点が見られることから、生活面等には言語的な困難を有する層に共通するニーズがあることも示唆されよう。また、日本語能力が高い対象者からのふりがなが不要であるという言及は、本調査の対象者が漢字圏からの留学生であった点も加味して考える必要がある。

また、聴覚障害学生のインタビュー調査では、「ステージ」のような情報媒体の普及に関する言及や、普段のあらゆる情報媒体へのふりがなに関するニーズが見られた。視覚的・文章面にわかりやすい情報提供のありかたのニーズは、聴覚障害学生と知的障害者の間で部分的に共通することが推察される。さらに、聴覚障害学生の語りから、わかりやすい情報媒体がさまざまな情報にアクセスする際の「きっかけ」として機能する可能性が示唆された。

5. 今後の課題

本研究では、知的障害者向けに作成されたわかりやすい情報媒体が言語的な多様性を有する人々にとっても有効であるかを調査し、時事情報についてはわかりやすい媒体として機能し得る可能性が示唆された。また、知的障害者向けの視覚的・文章の両面に配慮されたわかりやすい情報媒体へのニーズは、第一言語話者と第二言語話者との間で有意な相違が見られた。

今回の調査は量的に十分でなく、また聞き取り調査もあくまでわかりやすさへの意識を取り扱っている以上、あくまで予備的な傾向と示唆を得られたに過ぎない。得られた結果に基づき、わかりやすさに関する検証や、情報ニーズの共通・相違性にさらに踏み込んだ検討を行うことが今後の課題である。わかりやすさに関する検証の方法については、くやさしい日本語>によって作成されるNHK「NEWSWEB EASY」(<http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>)の理解度調査が実施されている例などがある(田中・美野, 2016)。「ステージ」や知的障害者向けのわかりやすい情報媒体を用いての、第二言語が日本語である人々やその他の障害者・高齢者等の言語的困難を有する群に対して大規模な理解度調査や意識調査を設計し、知的障害者向けのわかりやすい情報の有効性の検討を進めたいと考える。

また、わかりやすい情報媒体へのニーズに関して、さまざまな言語的背景を有する人々の「共通性」に関する追究を深めることも課題である。各種障害者や言語的困難を有する層が相互に利用できるような社会的実践の促進、環境整備や告知のあり方などを、当事者の情報アクセスの具体性に沿う形で追究する必要があるだろう。

謝辞 本調査の対象者に心より御礼申し上げる。また本研究は、JSPS 科研費(18K12987)の助成を受けた研究の一部である。記して謝する。

参考文献

- 松尾慎ほか(2013). 社会参加のための情報保障と「わかりやすい日本語」—外国人、ろう者・難聴者、知的障害者への情報保障の個別課題と共通性— 社会言語科学, 16(1), 22-38.
- 野澤和弘(2006). わかりやすさの本質 日本放送協会出版
- 田中英輝・美野秀弥(2016). ニュースのためのやさしい日本語とその外国人日本語学習者への効果 情報処理学会論文誌, 57(10), 2284-2297.
- 打浪(古賀)文子(2014a). 知的障害者への「わかりやすい」情報提供に関する検討—「ステージ」の実践と調査を中心に— 社会言語科学, 17(1), 85-97.
- 打浪(古賀)文子(2014b). 知的障害者の社会生活における文字情報との接点と課題—軽度・中度の当事者への聞き取り調査から— 社会言語学, 14, 103-120.
- 打浪文子ほか(2017). 知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と外国人向け「やさしい日本語」の相違—「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の語彙に着目した比較分析から— 社会言語科学, 20(1), 29-41.
- 打浪文子・岩田一成(2019). やさしい日本語化と情報の加除—NHK ニュース, NHK「NEWSWEB EASY」, 「ステージ」の比較— 庵功雄・岩田一成・柳田直美編著 〈やさしい日本語〉と多文化共生 ココ出版 印刷中